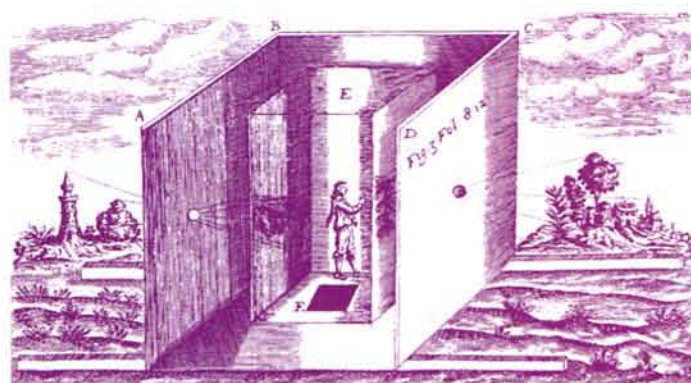


Vision: Record and Recording

映像工夫館展V
Experimental Visual Space

記録としての映像

前期=1997年4月6日[日] → 9月28日[日] 後期=10月3日[金] → 1998年3月29日[日]



会場=東京都写真美術館・地下1階映像展示室

主催=東京都写真美術館

観覧料=一般・大学生500円(400円) 小・中・高校生250円(200円)

3階常設展示室の観覧料を含む()内は、20名以上の団体料金

*小学生未満、65歳以上の方、および障害のある方とその介護者

1名は無料になります(証明できるものをご持参ください)

開館時間=10:00~18:00(木・金は20:00まで)

入館は閉館の30分前まで

休館日=毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合はその翌日)

年末年始 1997年12月28日(日)~1998年1月4日(日)



東京都写真美術館

〒153 東京都目黒区三田1-13-3 Tel.03-3280-0031
1-13-3 Mita, Meguro-ku, Tokyo 153



アサシウス・キルヒヤー
『光と影の偉大なる術』より



フレデリック・ヘンリー・エヴァンズ
『ヨーク・ミンスター寺院』



ナター
『ジェコ・マイア・ベアの肖像』



アメリカ航空宇宙局
『アポロ11号(サターン計画)』より



ダゲレタイプカメラ



ヴィクトリナ



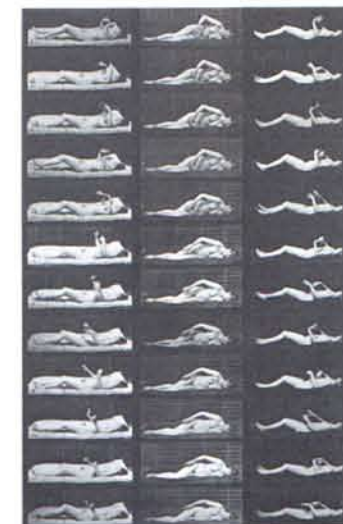
ピーター・ヘンリー・エマーソン
『沼地からの帰路』



ユーリ・ザロモン
『晩餐会でのフーヴァー大統領』



コンタプレックス



イードウ・アード・マイア
『アニマル・エクスモーション』より

映像工夫館展テーマVとして「記録としての映像」を開催します。

この展覧会では、一般的に記録と言った場合に想像されがちな「ドキュメンタリー映画」ではなく、写真を含む映像の歴史と、記録そのものについて総合的に扱います。

映像は、そのものの意味がなんであったにしても、現在では記録メディアと密接にかかわったかたちで存在するもの(こと)を指し示すことばです。いわゆる写真にしろ電子メディアにしろ、また静止画像であれ動画であれということですが、それらがもしも記録する意図をもったものによって、記録するものとして使われなければ、そこにはいまだという映像というものはあらわれなかったことでしょう。

そこでこの展示の中心となるのは、写真と映画、ビデオといった現代において普通に使われている映像記録についてと、それらの文化のなかでの位置づけについてです。

歴史的収集品だけではなく、模型、大型造形物なども使い、可能な範囲で来館者が参加できる展示構成となる予定です。

当館の歴史的収集品には、このテーマに直接関連したものとしてカメラ・オブスキュラのほか映画・写真関係のものがありますが、そのなかから今回は特に大型の動作模型として、カメラ・オブスキュラを選び製作しております。

映像そのもの、写真そのものについての展示であるということから、この展覧会は、東京都写真美術館における写真博物館展と考えていただいても良いかもしれません。

映像工夫館作品展

時と空間の記憶 ①「ビデオアートの25年」

1997年4月6日(日)~6月1日(日)

時と空間の記憶 ②

1997年6月5日(木)~7月27日(日)

時と空間の記憶 ③「アーティストと記録」

1997年7月31日(木)~9月28日(日)

「Film & Photography」

1997年10月3日(金)~11月29日(土)

「記録するものと記録されるもの」

1997年12月3日(水)~1998年2月1日(日)

「見えないものを見るために」

1998年2月5日(木)~3月29日(日)

*会期および展覧会名は変更になる場合があります。

常設展

「写真とメディア」

1997年4月6日(日)~12月27日(土)

●開催中●

常設展示室 「写真とメディア I 肖像はいかに伝達されたか」 4月6日(日)~6月29日(日)

企画展示室 「ネイチャー・ワールド」展 4月19日(土)~5月25日(日)

※企画展入場料は別途必要となります。



交通機関=JR恵比寿駅東口より徒歩7分(恵比寿ガーデンプレイス内)
お車のご来館はご遠慮ください。

ご案内

ハローダイヤル 03-3272-8600

インターネットWWW <http://www.tokyo-photo-museum.or.jp>